

誰もが笑顔で暮らせるまち

問障がい福祉課（内線434）

障がい者を支える相談員の想い ～一人一人の人生をサポートするために～

本市では、障がいのある人やその家族が安心して暮らすための相談・支援の窓口として、障がい者基幹相談支援センター（障がい者雇用センター）・障がい者相談支援センターを開設しています。今回、3つの基幹相談支援センター職員の方々に話を聞きました。

「相談支援の仕事をしていて、どんなことにやりがいを感じますか？」

聖徳園みどりの風 土井さん



やはり相談の中で人の輪が広がることはやりがいを感じますし、相談される方の生活の質が上がるとやっぱり嬉しいですね。

四天王寺悲田富田林苑 高橋さん



「基幹相談支援センターに相談してよかった」と言っていただけで嬉しいですね。相談員にできることは限られるかもしれませんが、相談者（良い方向に）変わったなど、周囲の人にも気づいてもらえた時に成果を実感します。

つじやま相談室

永田さん・安藤さん

障がい福祉サービスの利用を通じて相談された方が自分で生活ができるようになる嬉しさと感じますね。



「相談支援の仕事で最も大切に行っていることは何ですか？」

聖徳園みどりの風 守作さん

相談される方がごく普通の生活を送れるよう、気楽で楽しく相談や支援ができればと考えています。

つじやま相談室 永田さん

本人主体の気持ちを大切に、一緒に寄り添いながら支援する立場を大切にしています。それは、うちの相談室の職員全体が意識するよう心掛けていますね。

四天王寺悲田富田林苑 船本さん

相談員が支援の道筋を決めた福祉サービスにつなげて終わりではなく、あくまでもご本人に選んでいただくという意味決定支援を大切にしています。

ます。そのためにも将来どうなりたいか、どんな生活を望んでおられるかについてビジョンを伺いながら少しでも近づけるように支援していきたいです。

「相談支援で『これは知っておいてほしい』という点はありますか？」

全員：相談者の方から「どうすればよいかな？」と聞かれることがあります。私たちは、相談者が望む生活を送れるように部分的なサポートをすることが役割ですので、残念ながらできないこともあるかもしれませんが、一緒に寄り添っていきながら考え

ていきたいと思っています。

「最後に一言」

全員：相談したいことが整理できていなくても大丈夫です。まずはお気軽にご相談ください。あなたらしく生活できるように、寄り添い応援させていただきます。みんなで一緒に笑えるようにあたらしく！



障がい者基幹相談支援センターと障がい者相談支援センターの職員の皆さん

障がい者基幹相談支援センター（障がい者雇用センター）

第1圏域（喜志・第一中学校区）

（福）聖徳園「聖徳園みどりの風」（川向町6の31）

◎月～金曜日（祝日は除く）、午前9時～午後5時

☎（26）8627・FAX（26）8628

第2圏域（第二・第三中学校区）

（福）いずみ野福祉会「つじやま相談室」（廿山20の7）

◎月～金曜日（祝日は除く）、午前9時～午後5時

☎（28）5311・FAX（40）1513

第3圏域（金剛・葛城・藤陽・明治池中学校区）

（福）四天王寺福祉事業団「四天王寺悲田富田林苑」（向陽台一丁目3の20）

◎月～金曜日（祝日は除く）、午前9時～午後5時30分

☎（29）0500・FAX（29）0282

障がい者相談支援センター

●（福）桃花塾「ピーチネット」（喜志2067）

◎月～金曜日（祝日は除く）、午前9時～午後5時

☎・FAX（24）8626

●NPO法人あい「地域活動支援センターときわぎ」（昭和町二丁目2の6）

◎月～金曜日（祝日は除く）、午前9時～午後5時

☎（25）1516・FAX（25）1095

●NPO法人次世代育成・少子化対策研究会「アプローチ寺池」（寺池台二丁目12の8）

◎月～金曜日（祝日は除く）、午前10時～午後6時

☎・FAX（29）8655

その他にも、障がい福祉課内に出張相談窓口を設置しています。（内線162、月～金曜日（祝日は除く）、午前9時15分～午後5時）

共生社会の実現をめざして 障がい者雇用をより身近に

本市では、令和5年度に掲げた「障がい者千人雇用」を達成し、「障がい者千五百人雇用」を次なる目標としました。誰もが社会参加できる「共生社会」の実現をめざしています。

● 障害者雇用率制度をご存知ですか？

従業員が一定数以上の規模の事業主は、従業員に占める身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者の割合を法定雇用率以上とする必要があります。

法定雇用率未達成企業は、令和6年に厚生労働省が行った調査によると54%ですが、その一方で、近年、企業における障がい者雇用は着実に進展し、多様な人材活用への意識が高まり、積極的な採用も広がりつつある状況です。

躍できる社会の実現に向け、さらなる進展が期待されます。

法定雇用率の算定対象に、新たに精神障がいや重度の障がいがある人の短時間雇用（週所定労働時間10時間以上）も含まれるなど、雇用機会の拡大も期待されます。一部の企業では、職場環境の整備や専門部署によるサポート体制を構築し、誰もが活躍できる共生社会の実現に向けた取り組みを行うなど、障がいの有無や程度・種別を問わず、誰もが能力を発揮し、適性に応じて働くことができる環境整備が進んでいます。

◆ 法定雇用率（※は令和8年7月以降）

- ・ 民間企業：2.5% ⇒ ※ 2.7%
- ・ 国、地方自治体：2.8% ⇒ ※ 3.0%
- ・ 都道府県などの教育委員会：2.7% ⇒ ※ 2.9%



障がい者雇用の推進に向けて

● 雇用会議について

本市では、今年度から障がいのある人やその家族、障がい福祉サービス関係者、保健・医療関係者、雇用主関係者などが参画した「富田林市障がい者雇用会議」を実施しています。

今後、障がい者雇用の理解促進や啓発の取り組みなど、障がい者雇用の推進に向けた検討を進めていきます。会議の開催状況については、下図をご覧ください。



雇用会議委員の皆さんから メッセージをいただきました



「雇用会議で今後どのようなことを進めていきたいと考えていますか？」

就労継続支援B型事業所の花管理者 高塚委員

福祉サービス利用者が少しでも企業側とつながり、マッチングできるような細やかな仕組みができればと思います。

富田林商工会副会長 北野委員

障がい者雇用の現状を雇用側も理解できるようなかたちになってほしいです。

大阪大谷大学人間社会学部准教授 植木委員

ご本人のための人生支援、お仕事支援の仕組みづくりをめざし、みなさんと協働していきたいです。

「障がい者雇用の推進にあたり必要なことは何ですか？」

就労継続支援B型事業所の花管理者 高塚委員

一般就労と福祉的就労の両方が必要とする人もいます。

で、本人の希望に沿った仕組みが必要だと思います。

富田林商工会副会長 北野委員
雇用側に対するさまざまなサポートや支援の具体的施策などが身近に届くような仕組みがあればいいですね。

大阪大谷大学人間社会学部准教授 植木委員

草の根で地域資源と雇用側をつなぎ、就業支援の仕組みづくりの実現に向けた世の中づくりが必要だと感じています。



障がい者雇用会議の様子